１ 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

（１）大学としての教員養成に対する理念、設置の趣旨等

大学としての教員養成に対する理念・構想を含めながら、貴大学における教員養成に対する特色のある取り組みを含めながら記載すること。

①教員養成に対する理念・構想

本学のモットーである「徳と知」は、教員養成に対する大学の理念とも重なるものである。

近年、教員養成をめぐっては、教員の指導力不足等に加え、働き方改革が社会的テーマになるなど養成・採用段階で多くの課題を抱えている状況にあるといえる。これらを直視し、多様で優れた教員を育成するために、本学教員養成課程では、深い精神性と高い実践力を備えた以下のような教員の養成をめざしている。

○カトリック精神及び日本の伝統を理解し、深い教養を持った教育者
○豊かで自由な心を持ち、深い人間理解のできる教育者
○知性と品性を備えた教育者

これらを達成するため、大学の基盤をなす科目である「キリスト教学」「キリスト教音楽概論」をはじめとしたカトリック教育科目、人文・社会・自然分野をバランスよく学ぶ教養科目、各専門の学科・課程における初年次ゼミなどの必修・選択必修科目などの科目を配置し、豊かで深い人間性を持った教員としての基本的資質を養成する。その上で各学科・課程の専門科目を展開し、加えて学外研修等を含めた多様な実践的科目、課外の地域連携活動等により、専門知だけでなく総合知をも融合させた実践知を育てる「場」を提供する。本学の近隣府県においても教育・保育の現場の多文化化に伴い外国人の子供やその保護者と適切なコミュニケーションを取る必要性が増していることから、外国語の習得を必須とするとともに、日本語教育に関する科目の履修も可能としている。

いわゆる教職専門科目においては、教職に関する専門知識を体系的に学びつつ、徹底した授業実践や事例研究により教員としての実践力が高められるよう課程編成を行っている。また、ICT活用教育については、学部横断の「情報活用力プログラム」との積極的な連携により、取得する免許種にかかわらず一定の情報活用能力を備えた教員を養成する。

なお、「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月26日、中央教育審議会答申。以下「令和3年答申」という。）で述べられているように、近年の教育を取り巻く状況の劇的な変化に対応できる教員を養成するため、小規模である本学の特長を活かし、幼児教育、義務教育、高等学校教育の各段階と特別支援教育の全体像を理解しつつ専門性を身につけられるよう、各課程相互の連携・協力により柔軟な履修ができるよう配慮する。

②教職課程の設置趣旨

教育者としての使命感、子どもの発達に関する理解、教育的愛情をもつことの大切さを理解させ、教師としての基本的資質を養いながら、広く専門的知識や教養を深め、これらに基づく実践的指導力を育成する。本学の教育課程には、国際言語文化学部（英語英文学科、国際日本文化学科）、現代人間学部（生活環境学科、こども教育学科）、社会情報学環※の２学部１課程があり、いずれの教職課程も、旧来の教員養成プログラムにはない特性をもった、独自のカリキュラムを展開し、教育現場においてその教育力が大いに発揮でき、本学出身の教員が汎く日本の教育界に貢献することが期待される。中高専修免許課程を有する大学院人間文化研究科（応用英語専攻で英語科、人間文化専攻で国語科）においても、この点は同じである。このような趣旨から本学に教職課程を設置している。